

## <薬学教育>

項目	現状
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コアカリの今後の見直しに向け、2019年度から文科省委託事業を実施中（2021年度まで実施）。</li> <li>・2020年度は、現場の声をコアカリに反映させるため、薬剤師、医師、看護師等にアンケートを行った。</li> <li>・今後に向けては、医・歯のコアカリ改訂検討とも連携し、共通して学ぶべき事項を共有するなど、多職種連携への一層の対応及び医療現場等の最新の状況に対応した人材育成のための改訂を目指す。</li> </ul>
実務実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2013年に新 6 者懇において薬学実務実習に関する連絡会議を設置し、2015年 2 月に実務実習を適正に実施するための指針である「薬学実務実習に関するガイドライン」が示された。</li> <li>・2019年2月から改訂コアカリに基づく実務実習を実施（2020年度末に改訂コアカリ1期生卒業）。</li> <li>・2019年に実務実習の実施状況等に関する調査を実施。2019年12月に「令和元年度における薬学実務実習の実施状況を踏まえた課題と対応について」各大学・団体に通知。</li> <li>・2020年にコロナ禍での実習実施状況等に関する調査を実施。2021年1月に「令和2年度薬学実務実習中間調査に基づく課題への対応について」各大学・団体に通知。</li> <li>・今後、2022年度末まで本会議の実施期間を延長することとし、ガイドラインに基づいた実習実績の検証や、本会議実施期間終了後の検討組織の在り方について検討を行う予定。</li> </ul>
情報の公開（卒業）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2014年11月の薬学系人材の在り方に関する検討会（WG）において、入学者に対する標準修業年限内の卒業生及び国家試験合格者の割合、6年次の卒業留年の割合について、各大学の公表状況について整理し、HPで公表することを提言。これを受け、上記の情報を各大学において公表するとともに、文部科学省において各大学の公表状況について整理し、HPで公表を開始。</li> <li>・2020年度からは、情報がより分かり易い形で受験生等に伝わるよう、各大学が公表するフォーマットの統一を行った。今後、より一層受験生等の便宜が図られるよう、各大学の公表ページからも、文科省のHPの情報が閲覧可能となるよう対策を講じる予定。</li> </ul>
大学院進学、薬学部教員の養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度からの文部科学省委託事業において、4年制博士課程の在り方について調査研究を実施中。（2021年度まで実施）</li> </ul>

共用試験については、薬学共用試験センターにおいて実施。

専門分野別第三者評価については、薬学教育評価機構において実施。

# 薬学教育モデル・コアカリキュラム (平成25年12月改訂、27年度から実施)

- 6年制薬学部のカリキュラム作成の参考となる教育内容ガイドラインであり、学生が卒業までに身に付けておくべき必須の能力の到達目標を提示
- 「**薬剤師として求められる基本的な資質**」を設定し、それを身につけるための一般目標、到達目標を設定する**学習成果基盤型教育 (outcome-based education)**に力点
- 教育課程の時間数の7割はモデル・コアカリキュラムに示された内容を、3割は大学独自のカリキュラム等を履修

## 薬学教育モデル・コアカリキュラム

### A 基本事項

(1) 薬剤師の使命、(2) 薬剤師に求められる倫理観、(3) 信頼関係の構築、(4) 多職種連携協働とチーム医療、(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

### B 薬学と社会

(1) 人と社会に関わる薬剤師  
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範  
(3) 社会保障制度と医療経済  
(4) 地域における薬局と薬剤師

卒業まで継続して学修

### C 薬学基礎

C1 物質の物理的性質  
C2 化学物質の分析  
C3 化学物質の性質と反応  
C4 生体分子・医薬品の化学による理解  
C5 自然が生み出す薬物  
C6 生命現象の基礎  
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節  
C8 生体防御と微生物

### D 衛生薬学

D1 健康  
D2 環境

### E 医療薬学

E1 薬の作用と体の変化  
E2 薬理・病態・薬物治療  
E3 薬物治療に役立つ情報  
E4 薬の生体内運命  
E5 製剤化のサイエンス

### F 薬学臨床

早期臨床体験  
(2年次修了まで)  
実務実習履修前の学修

実務実習と体系的に関連づけて学修

実務実習  
病院及び薬局  
(20単位・22週)

(1) 薬学臨床の基礎  
(2) 処方せんに基づく調剤  
(3) 薬物療法の実践  
(4) チーム医療への参画  
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

### G 薬学研究

(1) 薬学における研究の位置づけ  
(2) 研究に必要な法規範と倫理  
(3) 研究の実践

実務実習開始前の「共用試験」  
(CBT(知識)・OSCE(技能))

実務実習と体系的に関連づけて学修

薬剤師国家試験

薬学準備教育ガイドライン(例示)

人と文化

人の行動と心理

薬学の基礎としての  
英語、物理、  
化学、生物、  
数学・統計学

情報  
リテラシー

プレゼンテーション

大学独自のカリキュラム(薬学アドバンス教育ガイドライン(例示)も参考)

# 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた調査研究

## テーマの趣旨

6年制薬学教育を基にした人材養成の更なる改善充実のため、薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた課題の整理及び今後の対応を検討するための調査研究を行う。また、本調査研究においては、チーム医療の推進等の観点から、医学・歯学、看護学関係者等の参画のもとで、他職種も含めて医療人として共有すべき価値観を考察するなど、他職種とも整合性のとれた内容とする。

なお、薬学系人材養成を発展・充実させていくためには、6年制薬学教育を受けた者がその上の4年制博士課程へ進学し、高度医療人や薬学分野の研究者として活躍する人材の流れを推進することが極めて重要である。そのため、本調査研究においては、4年制博士課程教育の実態を詳細に把握・分析し、課題を整理するとともに、4年制博士課程につながる6年制薬学教育の課題を検証するなど、その改善充実に向けた考察を行う。

このように、6年制薬学教育について、学部及びその上の4年制博士課程に関する課題をトータルで検証し、改善充実のための考察を行うことで、その結果を次期薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた検討に反映することを目的として、本調査研究を実施する。

## 調査研究内容

以下①②の内容を含む事業を実施するものとする。

- ① 6年制薬学教育の充実改善のため、薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた課題及び今後盛り込むべき事項の整理
- ② 4年制博士課程の教育研究内容、入学者・卒業者の属性及び進路に関する分析と課題に対する改善策の提示

## 公募対象・事業期間、事業規模及び採択数

委託先：一般社団法人 日本私立薬科大学協会

事業期間：令和元年度～令和3年度

事業規模：令和3年度予算額（案） 6百万円

採択数：1件

# 入学状況調査結果の大学公表用フォーマットの統一について

## 背景

平成26年度「質の高い入学者の確保と教育の質の向上に向けてのフォローアップ状況」（平成26年11月7日 新制度の薬学部及び大学院における研究・教育等の状況に関するフォローアップワーキング・グループ）において、情報の公開について、以下の提言が示されている。

### 5 情報の公表

学生の状況の公表については、受験生がその状況を理解した上で入学することができるようにするなど、社会一般の理解が得られる適切な方法により行う必要がある。

#### （公表する内容）

- 各年次の進級者数
- 入学者に対する標準修業年限内の卒業者及び国家試験合格者の割合
- 6年次の卒業留年の割合

文部科学省においては、上記に関する各大学の公表状況について整理し、ホームページで公表する必要がある。

令和2年5月の時点において、各大学での表示方法・内容に差があり、依然として未だ受験生などが容易に比較・検討できる環境とは言えない

上記の「公表する内容」（各年次の進級者数、入学者に対する標準修業年限内の卒業者及び国家試験合格者の割合、6年次の卒業留年の割合）について網羅した公表するフォーマットを定め、**各大学は今後共通のフォーマットにより公表することとした**

# 各大学のHP（公表フォーマット）

## 薬学部6年制学科における入学年度別の修学状況

〇〇大学

薬学部 薬学科

①2014年～2020年までの各年度における入学者数と進級者数

令和2年5月1日現在

入学年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
1年次数（②の（a）と同数）							
2年次進級者数							
3年次進級者数							
4年次進級者数							
5年次進級者数							
6年次進級者数							

②2019年度卒業者のうち、標準修業年限内（6年間）の卒業者及び国家試験合格者の割合  
（2019年度の卒業者については、2014年度入学者が標準修業年限内の卒業者として該当）

入学年度	2014
入学者数（a） （一括募集の場合は総数）※	
卒業生数（b） （標準修業年限内の卒業生数）	
卒業率 $(b/a) \times 100$ （標準修業年限内の卒業率）※	
国家試験合格者数（c） （標準修業年限内の合格者数）	
国家試験合格率 $(c/a) \times 100$ （標準修業年限内の合格率）※	

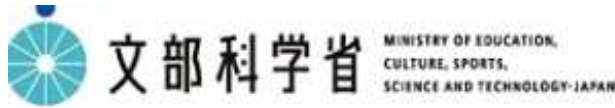
③2019年度における6年次の卒業留年の割合 ※〇〇を含む

6年次在籍総数（d）	
卒業生総数（e） （6年次在籍総数の内の卒業生数）	
卒業留年率 $(d-e)/d \times 100$ （卒業延期者数/6年次在籍総数）	

- 各大学は、公表フォーマットに必要事項を記入し、各大学のHPに公開
- 文部科学省HPに、各大学の公開ページのリンクを貼り、文部科学省HPからもアクセスができるようにする

# 文部科学省のHPにおける掲載方法①

## 2020年度の入学試験・6年制学科生の修学状況について



会見・報道・お知らせ	政策・審議会	白書・統計・出版物	申請・手続き	文部科学省の紹介
------------	--------	-----------	--------	----------

トップ > 教育 > 大学・大学院、専門教育 > 大学における医療人の養成(医学・歯学・薬学・看護学等) > 薬学教育

### 薬学教育

#### 1. 基礎資料・データ

- 薬学教育制度の概要
- 薬科大学(薬学部)学科別一覧(2020年度) (PDF53KB)
- 薬学系大学院専攻別一覧(2020年度) (PDF68KB)
- 各大学における入学試験・6年制学科生の修学状況等
- 6年制薬学教育の評価(第三者評価)(※一般社団法人薬学教育評価機構へリンク)

総表

各大学HPのリンク

#### 2. 薬学教育モデル・コアカリキュラム

- 薬学教育モデル・コアカリキュラムー平成25年度改訂版ー(基本理念)
- 薬学教育モデル・コアカリキュラムー平成25年度改訂版ー( E 医療薬学～G 薬学研究) (PDF1080KB)
- 薬学教育モデル・コアカリキュラムー平成25年度改訂版ー(薬学準備教育ガイドライン(例示)～委員)
- 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の概要 (PDF112KB)
- 薬学実務実習に関するガイドライン等

URL: [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_d/08091815.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/08091815.htm)  
もしくは、「文部科学省 薬学教育」で検索。



#### 3. 各種提言・報告等

# 文部科学省のHPにおける掲載方法②

## 〇〇年度の入学試験・6年制学科生の修学状況について

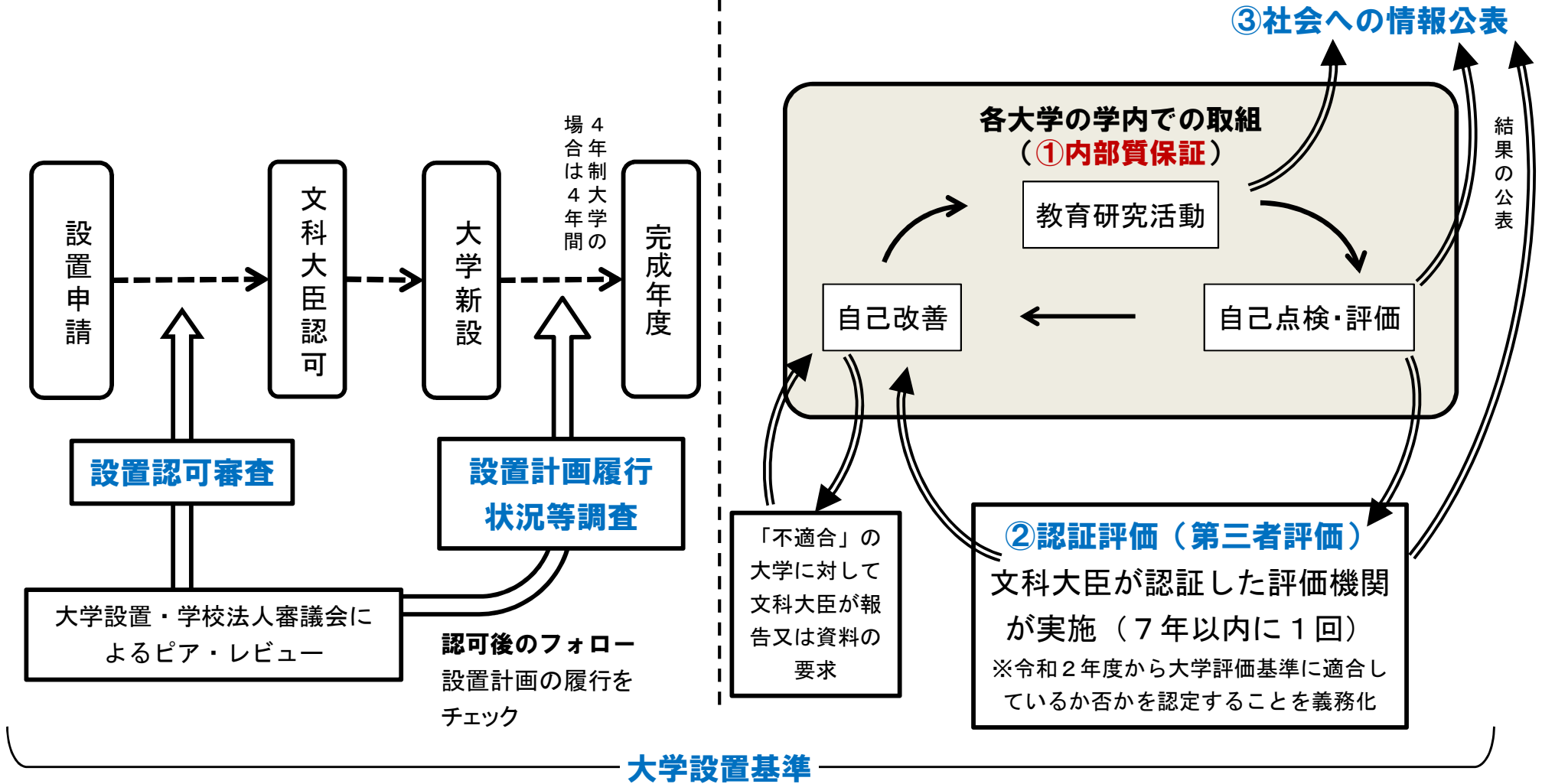
私立大学

大学名	2020年度入学定員		2020年度合格者数等				2020年度合格率・充足率		6年制学科の修学状況													2019年度卒業生入学年度別分布(6年制)					国家試験合格状況																	
	入学定員	6年制・4年制の入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実習修了率(受験者数/合格者数)	入学定員充足率(入学者数/入学定員)	2014年度入学生						2015年度入学生				2016年度入学生			2019年度卒業生入学年度別分布(6年制)					2020年度国家試験(第105回)※4																	
									2014年度入学時		2018年度5年次※3		5年次進級率		実習修了率		卒業者数		卒業率		国家試験合格者数		合格率		2015年度入学時		2019年度5年次※3		5年次進級率	実習修了率	2016年度入学時		2020年度5年次※3		5年次進級率	2014年度	2013年度	2012年度	その他	計	出願者	受験者	合格者	合格率
									2014年度入学時	2018年度5年次※3	5年次進級率	実習修了率	実習修了率	卒業者数	卒業率	国家試験合格者数	合格率	2015年度入学時	2019年度5年次※3	5年次進級率	実習修了率	実習修了率	2016年度入学時	2020年度5年次※3	5年次進級率	2014年度	2013年度	2012年度	その他	計	出願者	受験者	合格者	合格率										
19 北海道医療大学	6年制	160	665	652	529	155	1.2	96.9%	176	112	63.6%	112	63.0%	104	59.1%	95	54.0%	175	110	62.9%	110	62.9%	169	119	70.4%	110	18	4	6	138	138	116	105	90.5%										
20 北海道科学大学	6年制	180	1,040	1,002	622	200	1.6	111.1%	232	170	73.3%	169	72.8%	142	61.2%	129	55.6%	226	172	76.1%	172	76.1%	210	160	76.2%	142	28	2	2	174	187	150	134	89.3%										
21 青森大学	6年制	70	100	99	83	48	1.2	68.6%	59	17	28.8%	17	28.8%	14	23.7%	10	16.9%	60	27	45.0%	27	45.0%	56	31	55.4%	18	7	0	0	25	20	20	15	75.0%										
22 岩手医科大学	6年制	120	158	135	102	42	1.3	35.0%	190	124	65.3%	124	65.3%	103	54.2%	77	40.5%	159	91	57.2%	91	57.2%	130	73	56.2%	103	32	18	18	171	146	111	77	69.4%										
23 東北薬科大学	6年制	300	965	878	608	321	1.4	107.0%	318	238	74.8%	238	74.8%	225	70.8%	200	62.9%	313	233	74.4%	233	74.4%	306	246	80.4%	225	41	21	10	297	295	288	229	85.4%										
24 医療創生大学	4年制	40	109	101	90	31	1.1	77.5%																																				
25 奥羽大学	6年制	90	370	344	307	49	1.1	54.4%	83	30	36.1%	30	36.1%	23	27.7%	23	27.7%	96	31	32.3%	31	32.3%	79	34	43.0%	27	5	4	4	40	47	40	38	95.0%										
26 国際医療福祉大学	6年制	140	219	217	145	80	1.5	57.1%	118	79	66.9%	79	66.9%	75	63.6%	53	44.9%	86	68	79.1%	68	79.1%	67	54	80.6%	79	19	2	1	101	01	101	55	54.5%										
27 国際医療福祉大学	6年制	180	997	978	514	182	1.9	101.1%	197	135	68.5%	135	68.5%	125	63.5%	123	62.4%	197	130	66.0%	130	66.0%	194	119	61.3%	125	16	7	5	153	34	134	131	97.8%										
28 国際医療福祉大学	6年制	120	1,267	1,242	391	131	3.2	109.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
29 城西大学	6年制	90	514	495	197	91	2.5	101.1%	100	81	81.0%	81	81.0%	67	67.0%	64	64.0%	98	74	75.5%	74	75.5%	96	81	84.4%	67	12	7	4	90	86	71	68	95.8%										
30 日本薬科大学	6年制	250	973	859	578	175	1.5	70.0%	327	169	51.7%	168	51.4%	148	45.3%	127	38.8%	290	162	55.9%	162	55.9%	311	167	53.7%	148	34	17	11	210	15	177	148	83.6%										
31 日本薬科大学	4年制	150	501	468	373	138	1.3	92.0%																																				
32 城西国際大学	6年制	260	1,077	1,022	728	234	1.4	90.0%	283	151	53.4%	151	53.4%	125	44.2%	83	29.3%	279	155	55.6%	155	55.6%	263	118	44.9%	125	49	29	0	203	81	136	91	66.9%										
33 千葉科学大学	6年制	90	321	308	199	100	1.9	111.1%	187	74	44.3%	74	44.3%	59	39.1%	52	31.1%	101	68	60.8%	68	60.8%	108	63	60.0%	101	7	26	4	4	105	07	94	61	64.9%									
34 東京理科大学	6年制	130	297	288	200	91	1.1	58.9%	142	74	52.1%	73	51.4%	57	28.8%	53	26.1%	70	39.1%	69	38.5%	62	33.3%	36	19	3	7	53	54	43	42	97.7%												
35 帝京平成大学	6年制	240	2,112	1,957	1,246	466	1.6	113.1%	242	195	80.6%	195	80.6%	171	71.3%	144	60.0%	265	194	73.2%	194	73.2%	211	144	68.3%	242	41	18	14	248	83	182	124	68.1%										
36 東京理科大学	6年制	100	2,050	1,894	571	203	2.0	107.0%	99	94	96.2%	94	96.2%	89	81.7%	86	78.9%	102	95	93.1%	95	93.1%	110	99	90.0%	99	4	0	2	95	91	91	88	96.7%										
37 東邦大学	4年制	100	1,225	1,153	460	97	2.5	97.0%																																				
38 東邦大学	6年制	220	2,096	1,997	629	241	3.2	109.5%	258	207	80.2%	205	79.5%	196	76.0%	184	71.3%	238	203	85.3%	202	84.9%	278	238	85.6%	196	23	5	1	225	34	214	199	93.0%										
39 日本大学	6年制	244	1,648	1,452	645	254	2.3	104.1%	251	220	87.6%	219	87.3%	198	78.9%	174	69.3%	261	223	85.4%	223	85.4%	257	206	80.2%	199	36	13	4	252	12	211	183	86.7%										
40 北星大学	6年制	260	1,497	1,436	461	265	3.1	101.9%	280	240	92.3%	240	92.3%	238	91.5%	211	81.2%	265	240	90.6%	240	90.6%	250	227	90.8%	240	7	2	0	249	49	247	218	88.3%										
41 慶應義塾大学	4年制	35	207	197	99	37	2.0	105.7%																																				
42 慶應義塾大学	6年制	150	1,404	1,275	336	155	3.8	103.3%	160	142	88.8%	142	88.8%	139	86.9%	130	81.3%	150	137	91.3%	137	91.3%	169	146	86.4%	144	11	3	0	158	62	158	144	91.1%										
43 昭和大学	4年制	60	765	704	231	64	2.0	106.7%																																				
44 昭和大学	6年制	200	1,207	1,162	407	200	2.9	100.0%	188	162	86.2%	162	86.2%	154	81.9%	142	75.5%	198	163	82.3%	162	81.8%	198	163	82.3%	154	29	4	1	188	180	167	147	88.0%										
45 昭和薬科大学	6年制	240	2,191	1,877	830	263	2.3	109.6%	245	174	71.0%	168	68.6%	164	66.9%	144	58.8%	255	210	82.4%	210	82.4%	241	198	82.2%	164	39	7	5	215	221	206	167	81.1%										
46 東京薬科大学	6年制	420	2,546	2,320	885	492	2.6	117.1%	401	329	82.0%	328	81.8%	310	77.3%	271	67.6%	457	362	79.2%	362	79.2%	458	370	80.8%	310	36	8	20	374	366	328	285	86.9%										
47 聖薬科大学	6年制	260	3,005	2,860	761	270	3.8	103.8%	278	258	92.8%	258	92.8%	245	88.1%	223	80.2%	286	268	93.7%	267	93.4%	284	269	94.7%	248	17	5	1	271	269	256	232	90.6%										
48 聖薬科大学	4年制	20	353	335	129	22	2.6	110.0%																																				
49 武蔵野大学	6年制	160	2,799	2,589	409	139	6.3	86.9%	157	126	80.3%	125	79.6%	117	74.5%	107	68.2%	145	117	80.7%	117	80.7%	142	112	78.9%	117	17	3	1	138	144	124	113	91.1%										
50 明治薬科大学	6年制	300	2,962	2,570	626	315	4.1	105.0%	325	278	85.5%	277	85.2%	251	77.2%	241	74.2%	326	289	88.7%	287	88.0%	313	286	91.4%	255	29	6	3	293	302	265	252	95.1%										
51 帝京大学	4年制	60	761	684	339	63	2.0	105.0%																																				
52 帝京大学	6年制	320	3,326	2,981	611	364	4.9	113.8%	324	248	76.5%	248	76.5%	216	66.7%	198	61.1%	324	232	71.6%	248	76.5%	324	232	71.6%	216	25	5	4	250	259	250	226	90.4%										
53 横浜薬科大学	6年制	340	2,370	2,214	961	371	2.3	109.1%	391	234	59.8%	233	59.6%	163	41.7%	132	33.8%	371	245	66.0%	245	66.0%	371	224	60.4%	163	24	30	29	246	175	175	139	79.4%										
54 横浜薬科大学	4年制	30	254	243	115	30	2.1	100.0%																																				
55 岐阜医療科学大学	6年制	100	271	261	205	79	1.3	79.0%																																				
56 新潟薬科大学	6年制	180	341	330	282	108	1.2	60.0%	178																																			

# 我が国の大学の質保証のイメージ図

【設置認可審査等による入口における質保証】  
（大学の設置申請から完成年度までの質保証）

【認証評価や情報公表等による恒常的な質保証】



教育課程、教員数・教員資格、校地・校舎面積などの最低基準を定める（教育研究水準を確保）



# 定員の取扱い

- **大学設置基準**において、収容定員は、学科・課程を単位として、学部ごとに定めることとされている。
- 収容定員の規模に応じて、教員数や校地・校舎の規模等の必要となる教育環境の水準が定められている。
- 大幅な定員の超過や不足に対しては、**学部・学科等の設置**や**基盤的経費の配分**等においてペナルティがある。

□ 公私立大学の学部等の設置等の認可の基準について定めた告示により、**学部単位（学部の学科ごとに修業年限が異なる場合は学科単位）の入学定員に対する入学者の割合の平均（平均入学定員超過率）が一定値以上の場合は、認可しないこと**を規定。国立大学の「意見伺い」についても、この基準に準ずることとしている。

## ○認可の基準における平均入学定員超過率に係る要件

区分	大学				短期大学	高等専門学校
	4000人以上			4000人未満		
大学規模 (収容定員)						
学部規模 (入学定員)	300人以上	100人以上 300人未満	100人未満			
	1.05未満	1.10未満	1.15未満	1.15未満	1.15未満	1.15未満

□ 私立大学について、

○ 入学定員充足率が一定の基準を超えた場合に私学助成を全額不交付とする措置を実施。

大学規模別	収容定員 8,000人以上	収容定員 4,000~8,000人	収容定員 4,000人未満
入学定員充足率	1.10倍以上	1.20倍以上	1.30倍以上

○ 学部等ごとの収容定員に対する在籍学生数の割合（収容定員充足率）に応じた私学助成の増減調整を実施。

増減率	▲11%…▲20%…▲30%…▲40%…▲50%
収容定員充足率	89% … 80% … 70% … 60% … ~51%

※医歯学部については別途設定

※収容定員充足率50%以下は不交付

□ 国立大学について、各学部の定員超過率が一定基準以上になった場合、超過した学生数分の授業料収入相当額（学部（昼間）であれば1人当たり53.6万円）を中期目標期間終了時に国庫返納する。

## ○入学定員（1年次）に対する入学者数の定員超過（学部毎に算定）

※国費留学生、外国政府派遣留学生、大学間・学部間交流協定に基づく私費留学生、留学生のための特別コースに在籍する私費留学生については、控除して超過率を算出。

大規模学部（学部入学定員300人超）	中規模学部（学部入学定員100人超300人以下）	小規模学部（学部入学定員100人以下）
105%以上	110%以上	115%以上

## ○収容定員（2年次以降）に対する在席者数の定員超過（学部毎に算定）

※上記の入学定員（1年次）に対する定員超過における控除対象の留学生に加え、休学者や2年以内の留年者（2年間海外留学をしていた場合は3年以内の留年者）について控除して超過率を算出。ただし、全科目で学修目標、授業方法・計画、成績評価基準の明示、成績評価にGPA制度を導入、成績不振の学生への個別指導（面談、補修等）を行うことが条件。

大・中規模学部（学部入学定員100人超）	小規模学部（学部入学定員100人以下）
110%以上	120%以上

# 薬学教育 6 年制及び薬剤師に関する状況②

## ＜薬剤師国家試験、薬剤師免許取得後＞

項目	現状
薬剤師全般	・2020年7月より「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」を設置し、薬剤師の需給、資質向上、今後の薬剤師のあり方等について検討しているところ。
薬剤師国家試験	・2020年度（第106回）より改訂モデル・コアカリキュラムに対応した国家試験を実施予定。
需給調査	・2020年度予算において、薬剤師の業務実態や地域の医療提供体制等を踏まえた詳細な需給調査を実施。
薬剤師確保	・2021年度予算において、都道府県における薬剤師を確保するための取組事例等を収集し、地域偏在等に対応するための効果的な方策等を調査・検討する予定。
卒後研修	・厚生労働科学研究において、2019年度から国内外の卒後研修の現状を調査中。（3年間実施） ・2021年度予算において、医療機関等で卒後研修を行うモデル事業の実施及び全国で用いられる共通のカリキュラムの作成のための調査・検討を実施。
薬剤師の専門性	・2020年度から薬剤師の専門性に関する研修・認定制度の実態把握や今後求められる専門性を調査中。（3年間実施）
制度改正	・2019年12月4日に公布された改正医薬品医療機器等法について、薬剤師・薬局のあり方の見直しに関する事項が順次施行。 ○2020年9月 調剤後の服用期間中のフォローアップ、オンライン服薬指導 ○2021年8月 特定の機能を有する薬局の認定制度、法令遵守体制の整備

# 薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会①

- ・薬学教育6年制課程が平成18年に開始されて以降、地域包括ケアシステムの一員としての薬剤師の対応、医療機関におけるチーム医療の進展、「患者のための薬局ビジョン」におけるかかりつけ薬剤師・薬局の推進、令和元年12月に公布された改正薬機法など、薬剤師に求められる役割が変化している。
- ・このような状況から、今後の薬剤師の養成や資質向上等に関する課題について検討する。

## 検討項目

- ①薬剤師の需給調査
- ②薬剤師の養成
- ③薬剤師の資質向上に関する事項
- ④今後の薬剤師のあり方

## 検討スケジュール

- 令和2年度（第1回は7月10日開催）
  - ・需給調査の方法
  - ・薬局薬剤師の業務、病院薬剤師の業務 等
- ※需給調査は、令和2年度予算事業として実施
- 令和3年度
  - ・需給調査結果を踏まえた今後の薬剤師のあり方等
  - ・薬剤師のあり方等のまとめ

## 構成員一覧

- |        |                             |
|--------|-----------------------------|
| ○赤池 昭紀 | 和歌山県立医科大学客員教授               |
| 安部 好弘  | 公益社団法人日本薬剤師会副会長             |
| 早乙女 芳明 | 東京都福祉保健局健康安全部薬務課長           |
| 榊原 栄一  | 一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会副会長    |
| 鈴木 洋史  | 東京大学医学部附属病院教授・薬剤部長          |
| 武田 泰生  | 一般社団法人日本病院薬剤師会副会長           |
| ◎西島 正弘 | 一般社団法人薬学教育評価機構理事長           |
| 野木 渡   | 公益社団法人日本精神科病院協会副会長          |
| 長谷川 洋一 | 名城大学薬学部教授                   |
| 平野 秀之  | 第一三共株式会社執行役員渉外管掌            |
| 藤井 江美  | 一般社団法人日本保険薬局協会常務理事          |
| 本田 麻由美 | 読売新聞東京本社編集局医療部次長            |
| 政田 幹夫  | 大阪薬科大学学長                    |
| 宮川 政昭  | 公益社団法人日本医師会常任理事             |
| 山口 育子  | 認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長 |

◎座長 ○座長代理 (五十音順・敬称略)

# 薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会②

## 検討会での検討事項（案）

第1回検討会（令和2年7月9日）資料3より抜粋

- 薬学教育6年制課程が平成18年に開始されて以降、薬剤師に求められる役割や業務内容が変化している。検討会では、薬剤師の養成や資質向上に関する事項等を議論しつつ、今後の薬剤師のあり方をまとめていくこととしてはどうか。
  - また、議論の前提としては、今後の人口減少社会における医療需要の変化とともに、薬剤師の将来ニーズや今後新たに輩出される薬剤師数も重要となるので、今後の業務変化を踏まえた需給調査（令和2年度予算で調査費用を計上）を進めながら議論していくこととしてはどうか。
  - 具体的な検討事項は以下のとおりとしてはどうか。
- ① **薬剤師の需給調査**（具体的な調査内容は別途議論）
- ・薬剤師の業務実態と今後の業務（対人業務の充実のほか、機械化やICT等の技術を活用することによる業務変化も考慮して検討）
  - ・医療需要の変化を踏まえた薬剤師の将来のニーズ（今後の需要）
  - ・今後新たに輩出される薬剤師数（今後の供給）
- ② **薬剤師の養成**
- ・薬学教育や国家試験の現状を踏まえた今後の薬剤師の養成（①における薬剤師の業務変化のほか、今後の人口減少社会における学生数の減少や将来的な医療需要が減少局面となることも考慮して検討）
  - ・今後の薬剤師確保に関する対応（地域偏在の対応を含む）
- ③ **薬剤師の資質向上に関する事項**
- ・薬剤師の免許取得後の資質向上のための取組（生涯研修、薬剤師の専門性等）
- ④ **今後の薬剤師のあり方**
- ・上記を踏まえた、薬剤師が今後取り組むべき業務の考え方（薬局・医療機関のみならず、様々な従事先における薬剤師の取組）
  - ・今後の薬剤師の業務としては、ICTの活用や機械化等による対人業務の充実や業務効率化の取組に加え、今般の新型コロナウイルス感染症に伴う業務変化も踏まえながら、将来的な業務予測を行う。
  - ・併せて、薬剤師として必要な研究能力についても検討する。
  - ・また、平時の対応のみならず、災害時における対応、新型コロナウイルス感染症等の新興感染症における対応等の緊急事態の状況下での薬剤師が行うべき業務も考慮する。

## 参考資料

※薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会資料より

# 薬学教育・薬剤師に関する会議

## 薬学教育(学校教育法)



## 国家試験・免許(薬剤師法)



審議会

中央教育審議会 (大学分科会)

医道審議会 (薬剤師分科会)

薬剤師国家試験制度改善検討部会 (出題方法、内容、形式等の制度改善)

薬剤師国家試験出題基準改定部会 (出題基準の改定)

関係会議

新薬剤師養成問題懇談会※

薬学実務実習に関する連絡会議

※国公立大学学部長(科長・学長)会議、日本私立薬科大学協会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、文部科学省、厚生労働省の6者で構成

薬学系人材養成の在り方に関する検討会

薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会

その他

- 薬学教育モデルコア・カリキュラムの見直し  
(予算事業：薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究(令和元年度～3年度))
- 薬学教育評価機構(第三者評価の実施)
- 薬学共用試験センター(CBT・OSCEの実施)

- 薬剤師の需給動向把握事業  
(令和2年度予算事業)
- 卒後研修に関する調査(薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究(令和元年度～3年度))
- 専門性に関する調査(国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究(令和2年度～4年度))

# 需給調査の概要

- 今回の需給調査においては、以下の変動要因を考慮して推計することとしており、変動要因の把握のため、把握方法で示した情報収集や調査を行う。（前回検討会において説明）

## 推計規模

- ・ 全国の薬剤師総数のほか、地域別の薬剤師数について調査・推計
- ・ 推計期間は、25年後の2045年までとする

## 変動要因

### ● 需要

【薬局・医療施設に従事する薬剤師】 以下の変動要因を考慮して推計

- ① 将来の医療需要等の変化：投薬対象者数、処方箋枚数、病床数等の推移

（把握方法）医療・介護関連情報の収集

- ・ 過去の統計調査
- ・ 医療計画、地域医療構想 等

- ② 業務の変化：対人業務の充実、機械化・ICTの活用による業務効率化 等

（把握方法）薬局・医療機関における薬剤師業務の実態調査（タイムスタディ調査）

対人業務の充実や、ICTの活用・機械化等による業務効率化など積極的に取り組んでいる事例の調査（先進的な事例の調査）

- ③ 薬剤師の働き方：常勤・非常勤、勤務時間 等

（把握方法）薬剤師の働き方に関する調査

【上記以外の従事する薬剤師】 近年の従事者数や業態数の推移を踏まえ推計

### ● 供給

- ・ 大学進学予定者数、薬学部・薬科大学の定員数、薬剤師国家試験合格率・合格者数等に基づき推計

# 供給の推計に関する事項(大学進学者数、定員、国試合格者数等)

年	18歳人口	大学進学者数	薬学部・薬科大学 定員数	薬剤師国家試験 合格者数
H10 (1998)	162万	59万	7,720	8,387
H15 (2003)	146万	60万	8,575	8,802
H20 (2008)	124万	61万	12,170	10,487
H25 (2013)	123万	61万	11,505	8,929
H29 (2017)	120万	63万	11,408	9,479
↓	↓	↓		
2040	88万 (推計)	51万 (推計)		

(注) 文部科学省と厚生労働省の公表資料より作成。18歳人口、大学進学者数の推計は、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」(平成30年11月26日文部科学省中央教育審議会)より引用。



# 2019年度の入学定員・入学者数等（6年制）

○ 2019年度の入学定員充足率が90%以下の大学は、私立大学の57学部中21学部であった（4割弱）。

国公立大学	入学定員	合格者数等				倍率・充足率		（参考）過去の入学定員充足率		
		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率 （受験者数／合格者数）	入学定員充足率 （入学者数／入学定員）	2018年度	2017年度	2016年度
1 北海道大学 ※1	80*	252	112	27	25	-	-	-	-	-
2 東北大学	80*	270	226	87	87	2.6	108.8%	107.5%	110.0%	103.8%
3 千葉大学	90*	595	481	106	90	4.5	100.0%	106.3%	107.5%	106.3%
4 東京大学 ※2 （理科Ⅱ類）	532*	2,098	1,864	558	550	3.3	103.4%	102.8%	103.0%	102.4%
5 富山大学	55	469	353	62	59	5.7	107.3%	109.1%	103.8%	103.8%
6 金沢大学	75*	196	179	81	73	2.2	97.3%	106.7%	102.7%	100.0%
7 京都大学	80*	196	189	87	86	2.2	107.5%	107.5%	107.5%	107.5%
8 大阪大学	80	285	242	85	85	2.8	106.3%	100.0%	101.3%	107.5%
9 岡山大学	40	219	167	44	41	3.8	102.5%	102.5%	101.3%	103.8%
10 広島大学	38	207	186	41	41	4.5	107.9%	105.3%	101.7%	106.7%
11 徳島大学	40	233	203	47	44	4.3	110.0%	112.5%	103.8%	116.3%
12 九州大学	30	112	84	31	30	2.7	100.0%	103.3%	98.8%	101.3%
13 長崎大学	40	282	139	43	40	3.2	100.0%	110.0%	102.5%	100.0%
14 熊本大学	55	330	320	61	60	5.2	109.1%	100.0%	102.2%	102.2%
15 岐阜薬科大学	120	1,152	771	199	132	3.9	110.0%	110.0%	108.3%	90.8%
16 静岡県立大学	80	791	568	115	85	4.9	106.3%	122.5%	110.0%	102.5%
17 名古屋市立大学	60	801	551	109	66	5.1	110.0%	101.7%	109.0%	115.0%
18 山口東京理科大学	120	1,103	764	240	145	3.2	120.8%	99.2%		

\* 6年制・4年制一括募集の定員

※1 平成23年度から北海道大学は総合入試を導入しており、合格者数等欄は学部別入試分（6年制・4年制一括で募集数24人）に対するものであるほか、倍率・充足率は算出しません。

※2 入学定員欄には理科Ⅱ類の募集数を記載しています。薬学部の入学定員は80。

（出典）文部科学省「入学試験・6年制学科生の修学状況」  
（2019年（平成31年・令和元年）度、平成30年度、平成25～29年度）

私立大学①		入学定員	合格者数等				倍率・充足率		(参考) 過去の入学定員充足率		
			志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率 (受験者数/ 合格者数)	入学定員充足率 (入学者数/ 入学定員)	2018年度	2017年度	2016年度
19	北海道医療大学	160	727	703	427	165	1.6	103.1%	102.5%	110.0%	105.6%
20	北海道科学大学	180	995	957	620	189	1.5	105.0%	103.3%	104.3%	100.0%
21	青森大学	70	114	99	82	54	1.2	77.1%	43.3%	43.3%	50.0%
22	岩手医科大学	120	183	178	140	48	1.3	40.0%	53.3%	74.3%	81.3%
23	東北医科薬科大学	300	1,009	908	559	305	1.6	101.7%	104.7%	103.5%	94.4%
24	医療創生大学	90	397	387	368	57	1.1	63.3%	93.3%	95.6%	87.8%
25	奥羽大学	140	241	235	161	101	1.5	72.1%	80.7%	74.3%	48.6%
26	国際医療福祉大学	180	990	967	449	186	2.2	103.3%	107.8%	107.2%	107.8%
27	高崎健康福祉大学	90	431	417	194	95	2.1	105.6%	123.3%	105.6%	106.7%
28	城西大学	250	1,317	1,200	721	227	1.7	90.8%	101.2%	106.5%	127.0%
29	日本薬科大学	260	1,313	1,237	729	250	1.7	96.2%	106.9%	93.4%	98.9%
30	城西国際大学	130	419	390	309	101	1.3	77.7%	91.5%	85.4%	106.2%
31	千葉科学大学	120	289	269	263	61	1.0	50.8%	63.3%	68.8%	68.8%
32	帝京平成大学	240	2,386	2,196	549	210	4.0	87.5%	96.7%	100.0%	100.4%
33	東京理科大学	100	2,155	1,991	552	82	3.6	82.0%	87.0%	106.5%	105.5%
34	東邦大学	220	1,900	1,814	566	239	3.2	108.6%	109.5%	122.7%	126.4%
35	日本大学	244	1,873	1,692	594	259	2.8	106.1%	104.1%	105.7%	107.1%
36	北里大学	260	2,176	2,107	542	273	3.9	105.0%	101.5%	105.4%	100.0%
37	慶應義塾大学	150	1,653	1,479	351	151	4.2	100.7%	104.7%	105.7%	112.4%
38	昭和大学	200	1,754	1,693	433	200	3.9	100.0%	107.5%	99.5%	99.5%
39	昭和薬科大学	240	2,541	2,222	785	248	2.8	103.3%	102.5%	109.6%	100.4%
40	東京薬科大学	420	2,821	2,597	815	414	3.2	98.6%	108.3%	101.2%	109.0%
41	星薬科大学	260	3,382	3,240	744	301	4.4	115.8%	101.2%	108.6%	109.6%
42	武蔵野大学	160	3,550	3,323	379	140	8.8	87.5%	89.4%	102.1%	97.9%
43	明治薬科大学	300	3,208	2,833	620	308	4.6	102.7%	106.0%	108.6%	106.9%
44	帝京大学	320	3,326	2,981	611	364	4.9	113.8%	99.1%	104.4%	105.3%
45	横浜薬科大学	340	2,929	2,782	797	366	3.5	107.6%	114.1%	119.2%	108.9%
46	新潟薬科大学	180	360	346	310	131	1.1	72.8%	67.2%	83.3%	87.8%
47	北陸大学	200	532	516	471	127	1.1	63.5%	50.9%	52.7%	32.7%
48	愛知学院大学	145	1,243	1,120	539	144	2.1	99.3%	98.6%	99.3%	116.6%

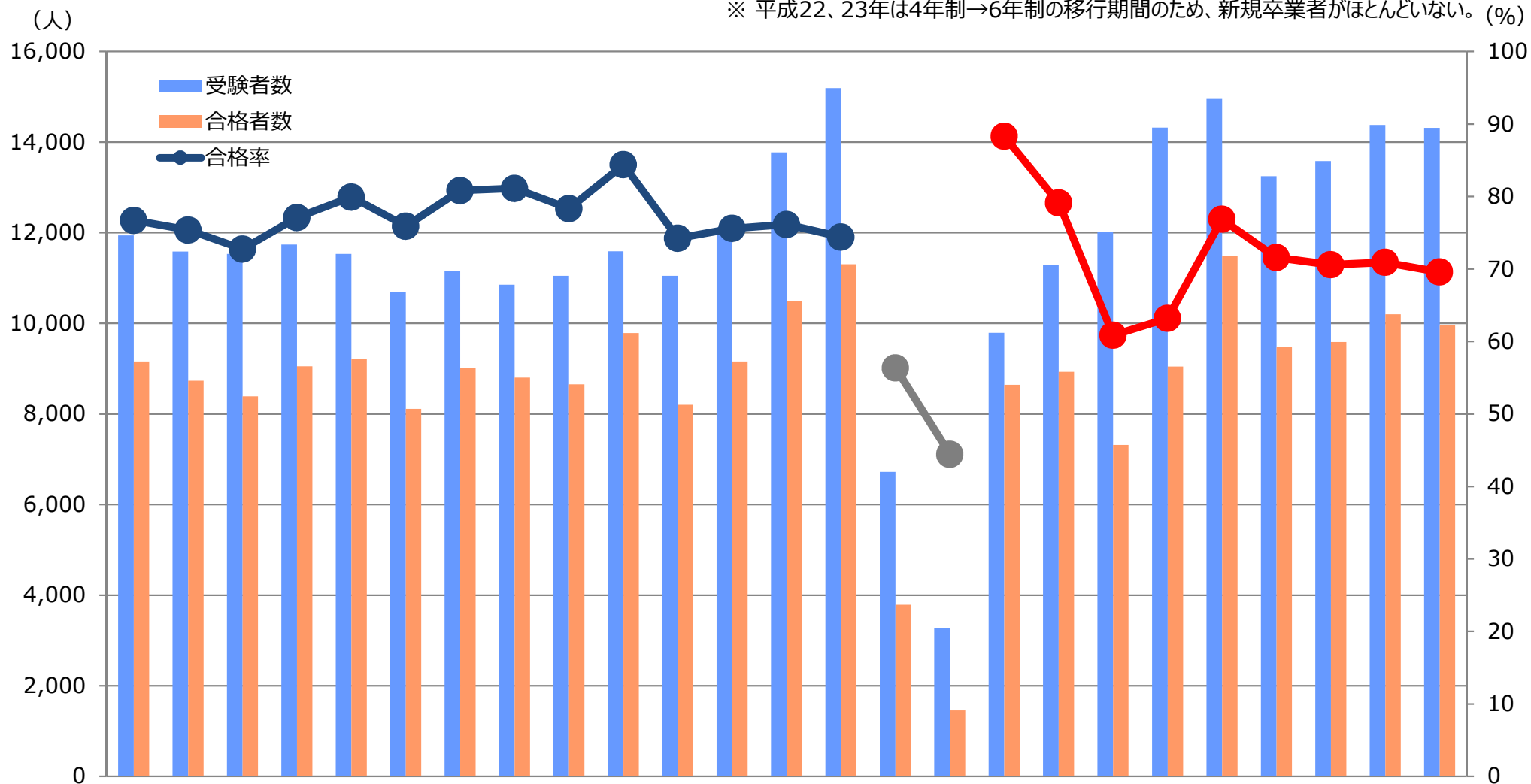
\* 水色セルは、入学定員充足率が90%以下の大学

私立大学②	入学定員	合格者数等				倍率・充足率		(参考) 過去の入学定員充足率			
		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率 (受験者数/ 合格者数)	入学定員充足率 (入学者数/ 入学定員)	2018年度	2017年度	2016年度	
49	金城学院大学	150	904	876	489	150	1.8	100.0%	106.7%	105.3%	101.3%
50	名城大学	265	2,240	2,057	986	258	2.1	97.4%	103.4%	110.2%	107.6%
51	鈴鹿医療科学大学	100	454	451	387	106	1.2	106.0%	108.0%	109.0%	98.0%
52	京都薬科大学	360	2,491	2,427	987	365	2.5	101.4%	113.1%	103.6%	102.5%
53	同志社女子大学	120	1,035	1,023	309	123	3.3	102.5%	110.0%	103.3%	105.0%
54	立命館大学	100	1,372	1,292	441	84	2.9	84.0%	88.0%	123.1%	101.9%
55	大阪大谷大学	140	474	431	323	134	1.3	95.7%	102.9%	108.6%	102.1%
56	大阪薬科大学	294	2,279	2,087	856	311	2.4	105.8%	104.4%	102.0%	105.3%
57	近畿大学	150	4,584	4,208	633	153	6.6	102.0%	98.7%	100.5%	109.4%
58	摂南大学	220	4,818	4,395	1,486	219	3.0	99.5%	105.5%	113.2%	99.5%
59	神戸学院大学	250	2,786	2,612	1,135	256	2.3	102.4%	96.4%	99.6%	98.8%
60	神戸薬科大学	270	2,696	2,448	784	287	3.1	106.3%	98.9%	113.7%	102.2%
61	兵庫医療大学	150	715	673	487	152	1.4	101.3%	110.0%	121.3%	102.0%
62	姫路獨協大学	100	156	122	114	30	1.1	30.0%	47.0%	78.0%	76.0%
63	武庫川女子大学	210	1,766	1,495	668	196	2.2	93.3%	97.1%	112.0%	95.2%
64	就実大学	120	394	386	324	94	1.2	78.3%	52.5%	78.3%	90.0%
65	広島国際大学	120	374	360	269	72	1.3	60.0%	87.5%	90.8%	100.0%
66	福山大学	150	369	361	232	108	1.6	72.0%	85.3%	94.0%	103.3%
67	安田女子大学	120	505	492	338	84	1.5	70.0%	84.2%	74.2%	64.2%
68	徳島文理大学	180	252	245	205	72	1.2	40.0%	41.1%	54.4%	55.0%
69	徳島文理大学 (香川薬学部)	90	146	141	131	40	1.1	44.4%	41.1%	50.0%	63.3%
70	松山大学	100	345	315	281	93	1.1	93.0%	95.0%	100.0%	98.0%
71	第一薬科大学	173	455	442	387	147	1.1	85.0%	105.2%	100.0%	82.1%
72	福岡大学	230	2,936	2,812	680	231	4.1	100.4%	100.4%	103.0%	100.9%
73	長崎国際大学	120	539	530	300	123	1.8	102.5%	91.7%	99.2%	102.5%
74	崇城大学	120	1,637	1,593	577	132	2.8	110.0%	127.5%	113.3%	113.3%
75	九州保健福祉大学	100	353	346	333	90	1.0	90.0%	65.7%	63.9%	95.6%
	私立大学合計	10,571	83,289	77,499	28,822	9,906	2.7	93.7%			

\* 水色セルは、入学定員充足率が90%以下の大学

# 薬剤師国家試験の受験者数、合格者数、合格率推移

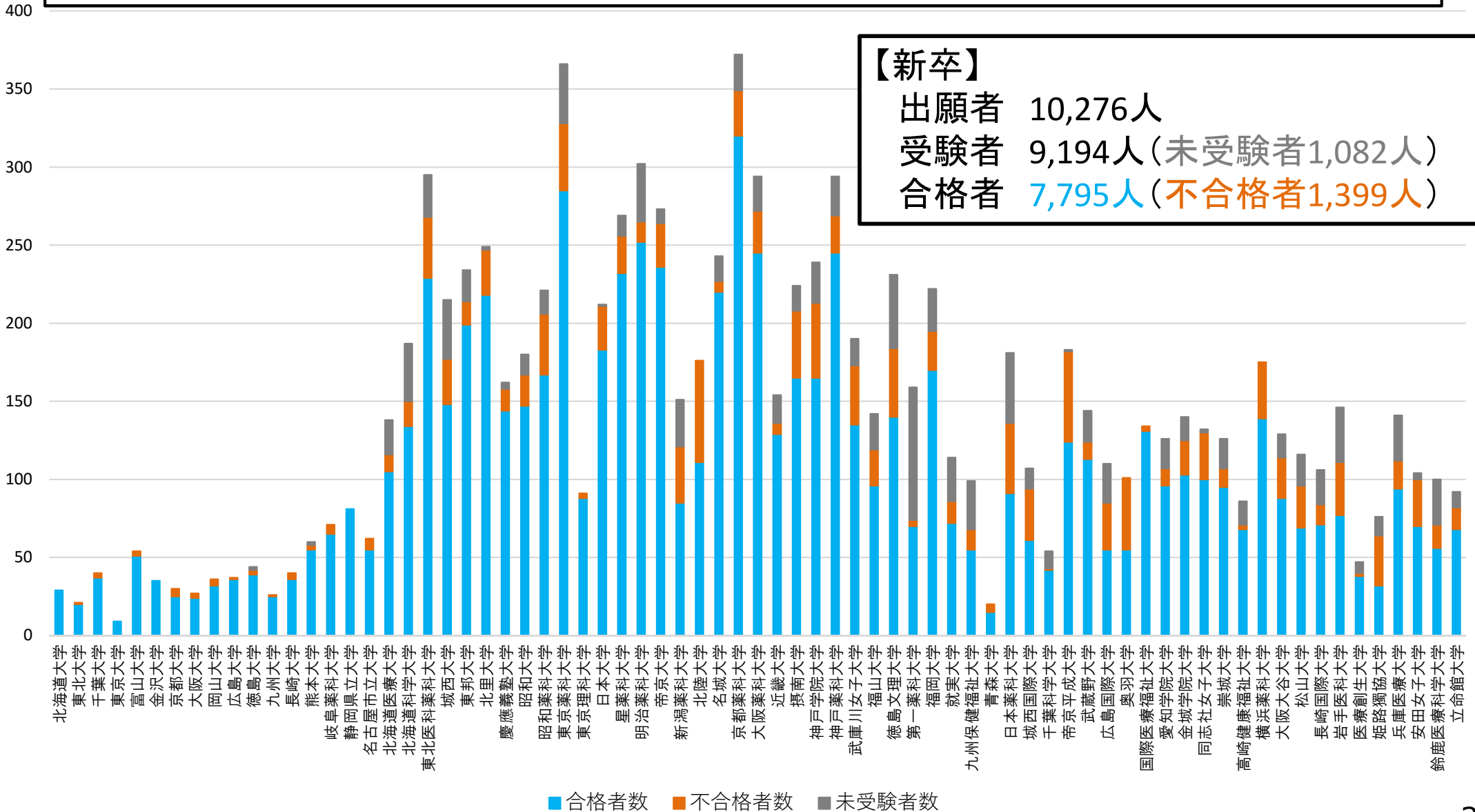
※ 平成22、23年は4年制→6年制の移行期間のため、新規卒業者がほとんどいない。(%)



	4年制														移行期		6年制								
年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
受験者数(人)	11,937	11,582	11,530	11,739	11,529	10,683	11,148	10,850	11,048	11,590	11,046	12,112	13,773	15,189	6,720	3,274	9,785	11,288	12,019	14,316	14,949	13,243	13,579	14,376	14,311
合格者数(人)	9,154	8,729	8,387	9,051	9,213	8,108	9,009	8,802	8,653	9,781	8,202	9,154	10,487	11,301	3,787	1,455	8,641	8,929	7,312	9,044	11,488	9,479	9,584	10,194	9,958
合格率(%)	76.7	75.4	72.7	77.1	79.9	75.9	80.8	81.1	78.3	84.4	74.3	75.6	76.1	74.4	56.4	44.4	88.3	79.1	60.8	63.2	76.9	71.6	70.6	70.9	69.6

# 第105回国家試験の新卒出願者の状況【実数】

- 第105回薬剤師国家試験の出願時期は令和2年1月6日～16日であり、2月22日・23日の国家試験後、卒業したことを確認の上、合格者を決定した。
- 新卒の場合、出願時期の段階では卒業見込みとして出願し、卒業できる者が受験することになる。



# 第105回国家試験の新卒出願者の状況【割合】

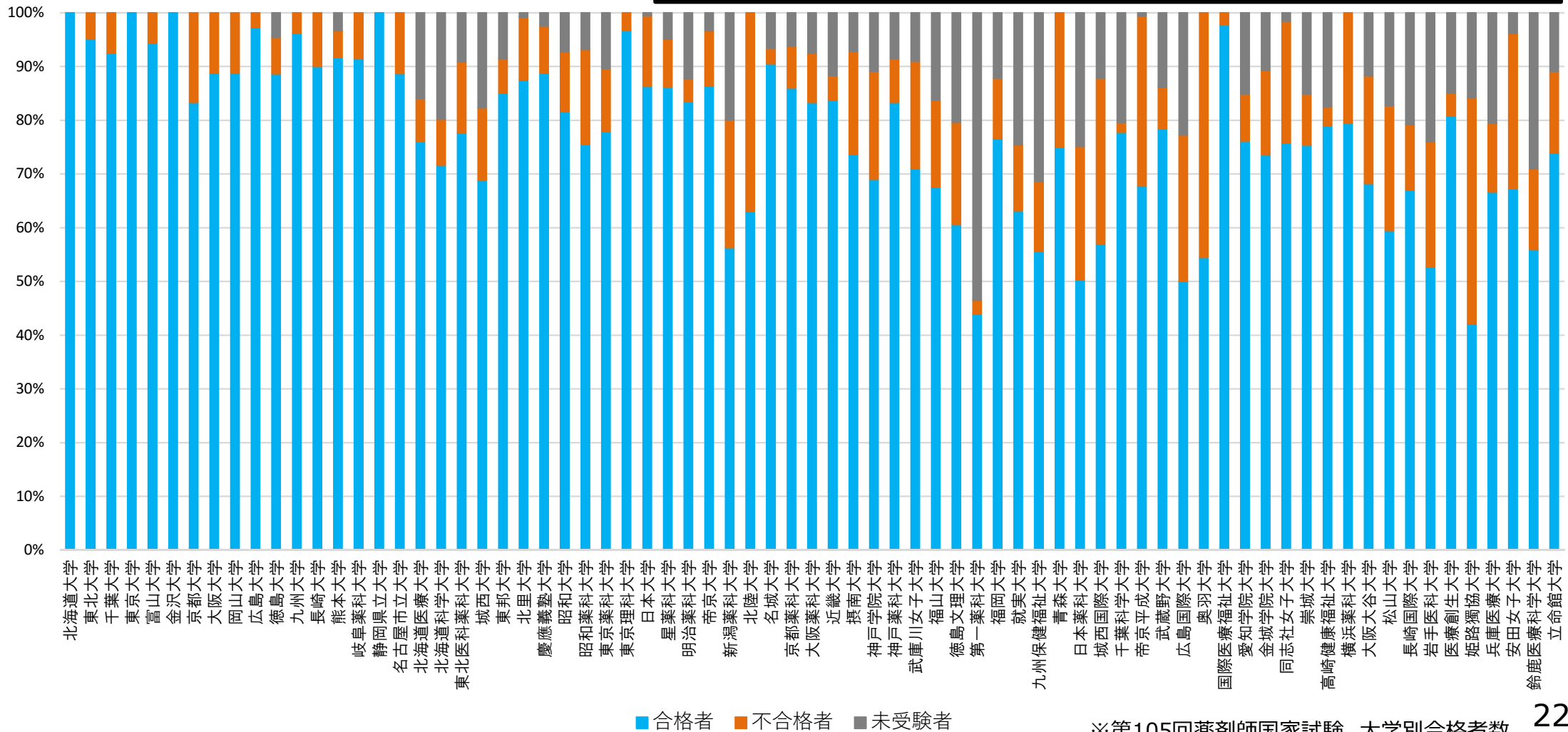
○ 出願者のうち未受験者の割合は約1割。未受験者のほとんどは私立大学であり、大学によって差がある。

## 【新卒】

出願者 10,276人

受験者 9,194人(89.5%) (未受験者1,082人(10.5%))

合格者 7,795人(75.9%) (不合格者1,399人(13.6%))

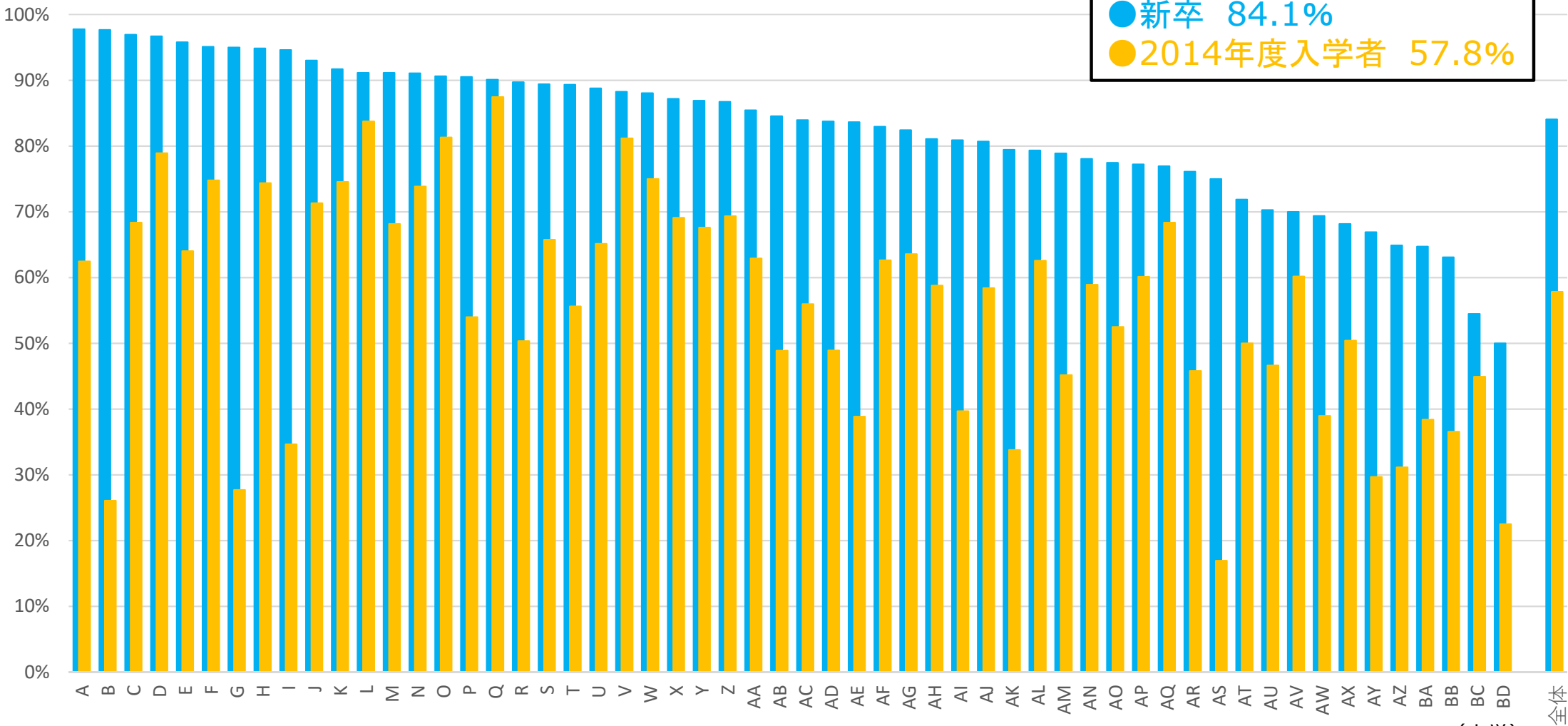


# (参考) 私立大学の合格率① (第105回国家試験)

- 私立大学の新卒の合格率は84.1%であるが、新卒のうち6年間で卒業・合格した2014年度入学者で見ると、2014年度の入学者全体に占める割合は57.8%と推計。
- 入学から6年間で国家試験に合格できる者の割合は、大学によって差がある。

(■) 2020年3月に卒業した新卒の合格率(合格率の高い順)  
 (■) 2014年度入学者のうち、6年間(2020年3月)で卒業・合格した学生の割合

<私立大学全体の合格率>  
 ● 新卒 84.1%  
 ● 2014年度入学者 57.8%



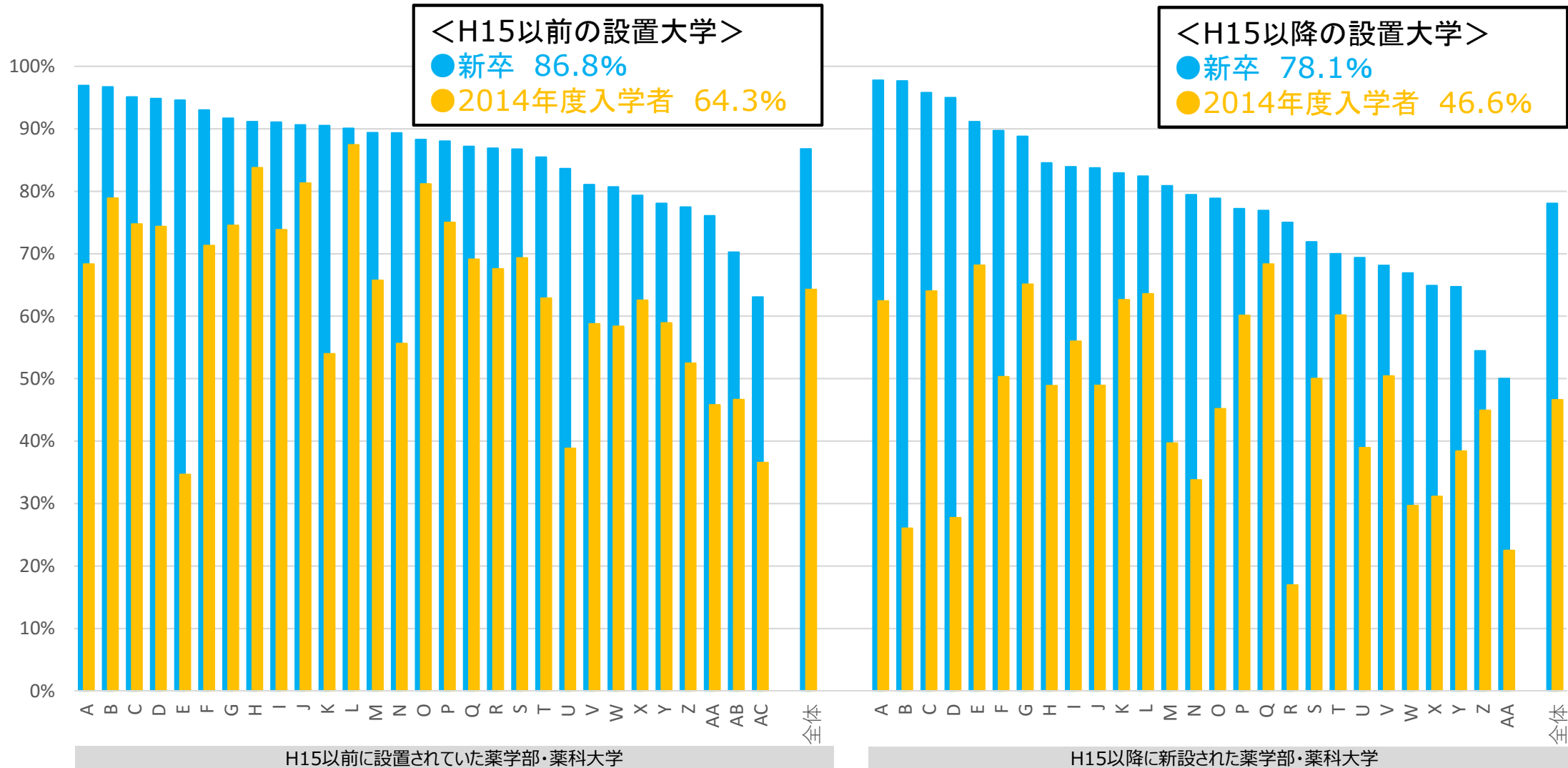
※2014年度入学者数は文部科学省の公表資料、国家試験合格者の入学年度は国家試験の出願書類に記載されたものを用いて厚生労働省において割合を試算した参考値。(参考値なので大学名は明示していない)

# (参考) 私立大学の合格率② (第105回国家試験)

○ 2003 (H15) 年以降に新設された大学とそれ以前の大学で比較すると、特に2014年度入学者の合格率に差がある。

(■) 2020年3月に卒業した新卒の合格率(合格率の高い順)

(■) 2014年度入学者のうち、6年間(2020年3月)で卒業・合格した学生の割合



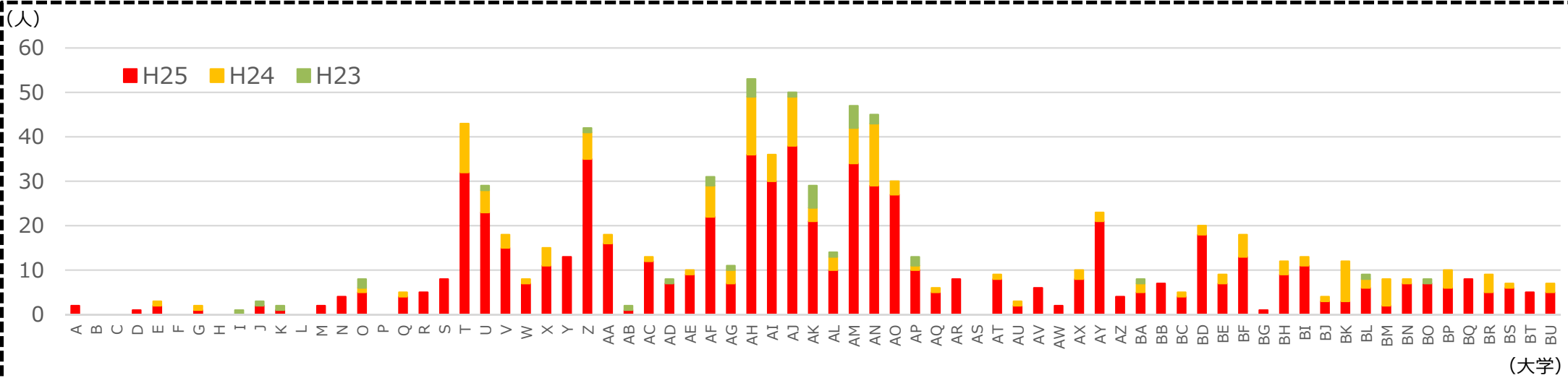
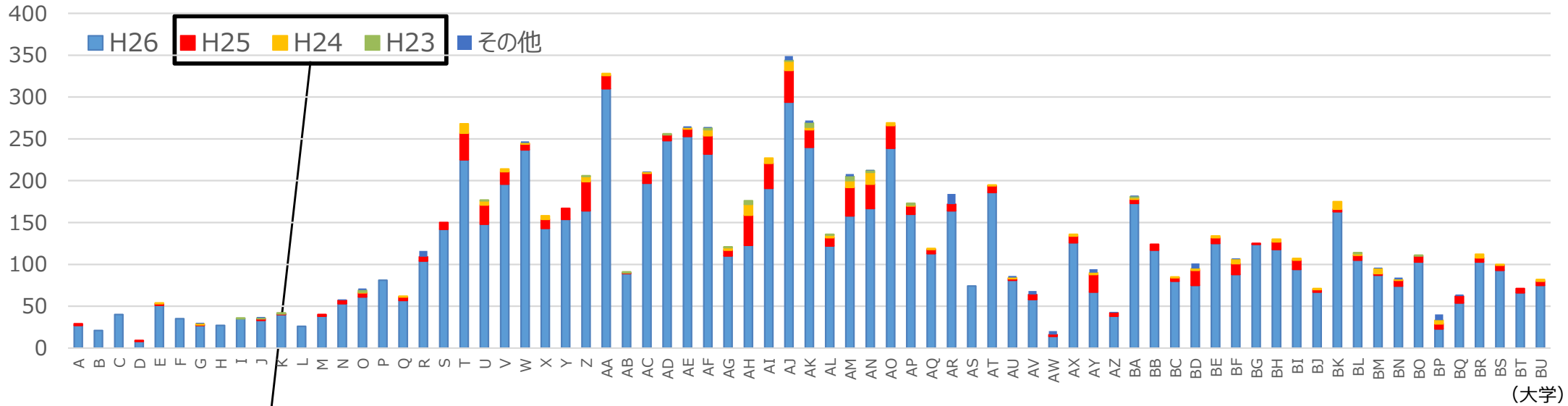
※2014年度入学者数は文部科学省の公表資料、国家試験合格者の入学年度は国家試験の出願書類に記載されたものを用いて厚生労働省において割合を試算した参考値。(参考値なので大学名は明示していない)



# (参考) 新卒受験者の入学年度 (R2.2実施の第105回国家試験)

○ 新卒 (R2.3卒業見込み) の受験者 (9,194人) の入学年度は、大半はH26年度であるが、それ以前の入学年度の学生も存在する。(新卒受験者だからといって、入学から6年間で卒業見込みではない)

(人)

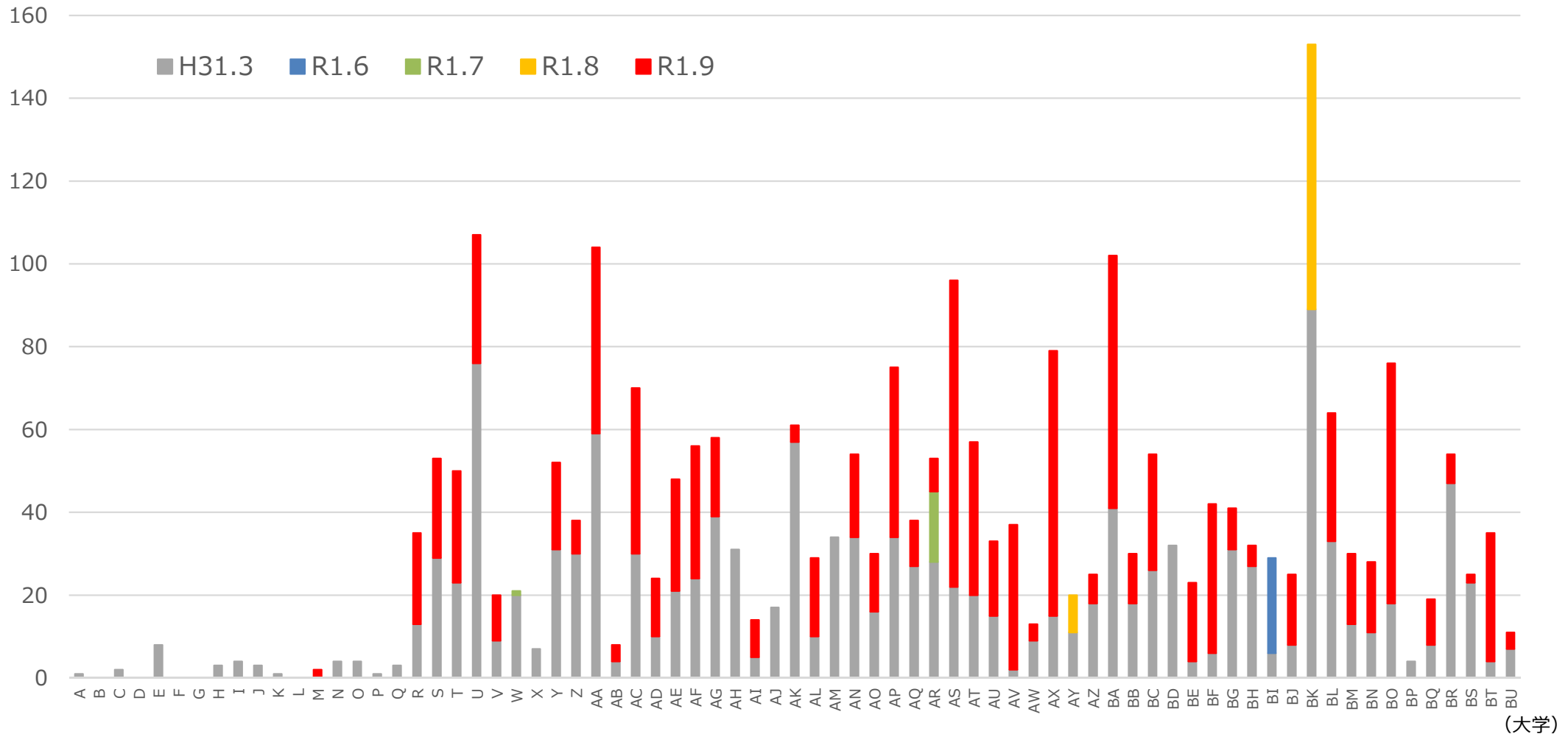


※国家試験合格者の入学年度は国家試験の出願書類に記載されたものを用いて厚生労働省で集計したものであり、数字は参考。  
(参考値なので大学名は明示していない)

# (参考) 既卒の受験者の卒業月 (R2.2実施の第105回国家試験)

- 既卒の受験者のうち、直近1年間に卒業した人 (2,492人 (参考値)) の卒業月は、3月以外の人も多い (直近1年間に卒業した人の5割弱)。
- 本来は、第104回国家試験の新卒としてH31.3に卒業するはずであったが、卒業留年等で卒業時期が遅れたものと考えられる。(第105回の受験時には既に卒業しているので、新卒にはならない)

(人)



※国家試験合格者の卒業年月は国家試験の出願書類に記載されたものを用いて厚生労働省で集計したものであり、数字は参考。  
(参考値なので大学名は明示していない)